職場の皆様に理解していただきたいこと

○結核を発病しても、治療しながら仕事ができます

外来治療中の患者であれば、一緒に仕事をしても周囲の人へ感染を広げる心配はありません。ただし、病状によっては、一定期間、特定の職種につけないことがあります。

○職場内での差別や偏見につながらないよう注意が必要です

医学の進歩により、結核の治療方法は確立されていますが、今でもなお、差別や偏見があります。結核の発病は誰のせいでもありません。患者の人権が損なわれる事態が起こらないよう、細心の配慮が必要です。

また、結核について正しい知識を持つことが差別や偏見の解消につながります。困った時には、保健所へご相談ください。

外国出生者に対するポイント

○文化の違いを理解する必要があります

出生国の文化や医療制度は様々です。病気や治療への考え方が日本人とは異なる場合がありますので、支援する側は、文化の違いへの配慮が必要です。

○毎日の服薬や通院について、支援が必要です

慣れない土地での病気はただでさえ心細く、また、長期間、毎日薬を飲まなければならないので、つらい思いをしています。最後まで治療を続けられるよう、服薬の支援をお願いします。

また、受診時の通訳や交通手段にも配慮をお願いします。

○病気を理由とした退職につながらないよう、ご理解をお願いします

職場内に「病気＝退職」の風潮が広まると、体調不良を隠すことにもつながります。周囲の人に感染を広げる可能性がない状態であれば、治療をしながら働くことができますので、ご理解をお願いします。

正しい理解と適切な支援をお願いします

発 行 者：熊本県
所　　属：阿蘇保健所
発行年度：令和元年度

結核患者の対応に関わられる事業者様へ

結核は、空気感染で広がりますが、正しい知識を持っていれば、不用意に恐れることはありません。慌てずに冷静な対応をお願いします。

結核患者発生後の対応としては、まず、周囲の方々に感染していないか確認する必要があります。

また、患者が安心して治療を受けられるよう、結核についての正しい理解と患者への支援をお願いします。

職場での対応が必要な場合は、保健所から連絡を行いますので、ご協力をお願いします。

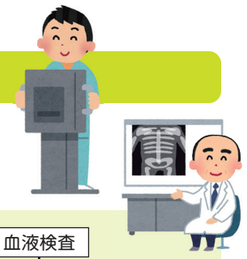
✓ 職場環境についてお聞きします

結核は、空気感染で周囲に広がります。狭い室内、換気の悪い場所、人が密集している所で感染しやすいため、どのような職場環境かを確認します。

✓ 患者と接触した方についてお聞きします

結核は、屋内で空気を共有することにより感染しますので、誰がどのくらいの時間、接触したかを確認します。

✓ 必要に応じて、接触者健診（健康診断）のご案内をします



職場内で患者と接する機会が多かった方に健康診断をお願いすることがあります（検査費は無料です）。

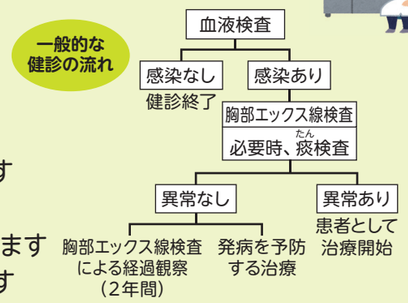
<接触者健診の検査方法>

○血液検査
→感染しているかを調べます

○胸部エックス線検査
→発病しているか（体の中で病気が進行しているか）を調べます

○痰検査
→感染性があるか（周囲の人に感染を広げる恐れがあるか）を調べます

※上の3つの検査から、必要な検査を受けていただきます



全員、接触者健診を受けなければならないのですか？

A. 結核患者と濃厚に接触した方や、結核の発病リスクが高い方に検査を受けていただきます。

接触者健診を受けていただく方には、保健所からご案内をさせていただきます。

いつ接触者健診の案内が来るのですか？

A. 結核患者が発見された後、すぐに行う場合や、2～3ヶ月後に行う場合、またはその両方の場合などがあります。

結核患者が、どの程度の感染性があったか、また、患者との接触時期などを確認したうえで、接触者健診を受ける日時を保健所からお伝えします。

熊本県　阿蘇保健所

✓ 結核の治療は6ヶ月間の内服治療です

全ての患者が入院する必要はありませんが、周囲の人に感染を広げる可能性がある場合は、2ヶ月程度の入院が必要になります。

✓ 職種によっては、就業が制限されることがあります

外来治療中でも、病状によっては、一定期間、特定の職種につけないことがあります。

注意

中断することなく、確実に薬を飲み続けることが最も大切です。

きちんと薬を飲まなかったり、勝手に治療をやめると、薬が効かなくなります（薬剤耐性）。

様々な支援体制があります

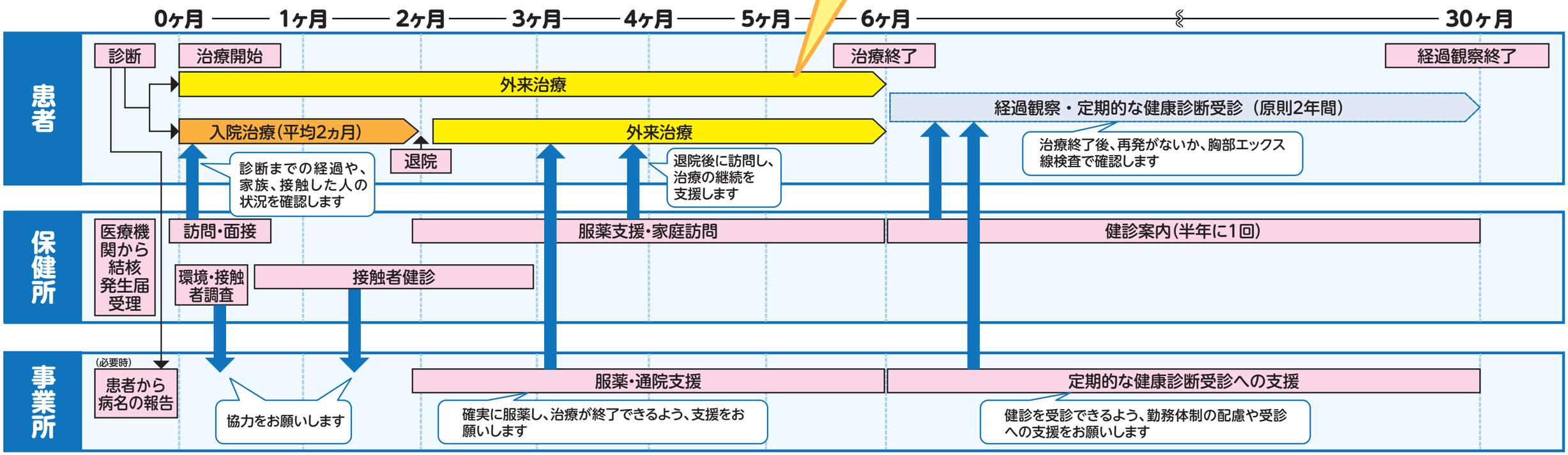
結核治療に係る医療費の公費負担制度があります

入院しなければならない場合は、入院費は原則0円、それ以外の場合でも5%の自己負担で治療が受けられます。

服薬支援を行います

薬剤耐性を作らないために、結核が完治するまでの間、医療機関や保健所などが確実に服薬できるよう服薬支援を行います。

■ 結核治療の流れ



? 外来治療中の結核患者と仕事をしても大丈夫なの？

A.　大丈夫です。外来治療中の患者から周囲の人へ感染を広げる心配はありません。

? 接触者健診で感染が分かりました。今後、どうなりますか？

A.　以下のいずれかを行うことになりますので、医師にご相談ください。

- 発病しないように（体の中で病気が進行しないように）、予防的な内服（6ヶ月間）
- 胸部エックス線検査による経過観察（2年間）

～実際に結核患者の対応に関わった雇用主様の声～病と向き合い心のケア

外国人技能実習生の1人が体調不良を訴え、近くの病院で診察を受けた。風邪と診断され処方薬を飲ませ様子を見たが、なかなか改善せず、咳（せき）や微熱が続き、徐々に表情も暗く疲れている様子だった。通院して2ヶ月近く経った頃、結核の可能性が高いと言われ、専門医を紹介され診察を受けた。診断の結果、肺結核。「これは大変なことになった！」と、一瞬パニックになったが、冷静に優先順位を決めて対処した。

1．治療が6ヶ月と長期にわたるため、通訳を入れて本人の意思を確認しながら治療に専念できるようサポート

一番大変で苦しいのは患者自身であり、文化や習慣の違う日本の地で病気と闘うのはいかに不安で心細い事か私もよく理解できた。身元引受人として必ず守るので、一緒にがんばろう。「必ず治す」という強い気持ちを持たせ、勇気づけた。

2．入院中は安心だったが、退院後の服薬管理が重要

薬の飲み忘れや、中断は絶対に許されない。これまでの治療がすべて無駄になる。生活指導員をつけ、「ちゃんと確認、ちゃんと点検」を合言葉に、副作用の管理も含め徹底した。

3．通院は社長が積極的に対応した

病院には、必ず通訳を待機させ、診断の結果、進捗状況を母国語で説明し、安心を与えるよう心がけた。

※お蔭様で、健康を回復させ、元気に帰国させることができました。改めて雇用主としての責任を痛感いたしました。